

3. 高校3年生

生き方を探る—これが私の生きる道 生き方を共有するスピーチの取り組み

山田 孝・三島 徹
丹下 容子・鈴木 一
柳田 嘉久・徳井 輝雄

【抄録】 高校3年生の進路というそのまま「大学進学」の進路となってしまうがちだが、総合人間科では「生き方」を中心に据えて、自分の将来とどう向き合うか取り組んできた。特に、「進路」＝「生き方」を個人の問題とせず全員の共通する問題として共に励まし合いながら総合人間科の授業で取り組んできた。この共通の問題とする作業として、自分の考えを簡潔に語るスピーチを行った。このスピーチにより生き方についての共感が広がったのである。

【キーワード】 生き方 進路 「これが私の生きる道」 PUFFY スピーチ 個人学習

1. はじめに

高校3年生の学年テーマは、「生き方を探る」である。高校生活最後の一年を「生き方」について考えるわけである。この「生き方」はある意味では、進路に直結しているのであるが、高校3年の総合人間科では、「生き方」を単なる「進路指導」にするのではなく、「自覚的に人生を選択する力」を目指して行ってきた。さらに、これは「生き方」を個人の問題とするのではなく、仲間で生き方を共有し、励まし合い、批判を行ってそれぞれの「生き方」にたどり着くことを目的としてきた。従来、「生き方」＝「進路問題」は個人の問題として考えられてきた部分が大いなのだが、総合人間科では、「生き方」を仲間と共有して考えていく、そのためにグループごとに「生き方」のスピーチを行ってきた。このスピーチを取り組むことにより、同じ悩みを仲間も持っていることを認識し、より自分の問題にも取り組めるようになり、「生き方」にも積極的に取り組むようになった。このスピーチの取り組みを中心にして、高校三年の総合人間科の取り組みを紹介する。

2. 一年間の取り組み

- | | | |
|-----|-------|-------------------------------------|
| 第1回 | 4月18日 | オリエンテーション
昨年度のパネルディスカッションのビデオを紹介 |
| 第2回 | 5月30日 | 系統別進路研究会 |
| 第3回 | 6月6日 | 進路研究のフィールドワークの準備 |
| 第4回 | 6月18日 | 午後フィールドワーク実施 |
| 第5回 | 6月20日 | 特別講義 |

- | | | |
|------|--------|---|
| 第6回 | 7月4日 | 進路研究フィールドワークの報告会 |
| 第7回 | 9月5日 | 二学期の予定説明・スピーチの準備
スピーチ用ワークシートの記入 |
| 第8回 | 9月19日 | スピーチの準備その1 |
| 第9回 | 10月3日 | スピーチの準備その2 |
| 第10回 | 10月31日 | 各グループでのスピーチ
「これが私の生きる道」その1
各グループから代表3名を選出 |
| 第11回 | 11月7日 | 全体スピーチ
「これが私の生きる道」その2
各グループ代表のスピーチを聴く |
| 第12回 | 11月21日 | 卒業論文の準備 |
| 第13回 | 12月5日 | 卒業論文の完成 |

3. 学年テーマについて

(1) 学年テーマ「これが私の生きる道」 —4月のオリエンテーション資料から—

『高校1年「生命と環境」

—地球を守るネットワーク

高校2年「国際理解・人権・平和」

—沖縄の心から平和を学ぶ

そして、高校3年は・・・

これまでの2年間の総合人間科の授業では、私たちがこれからの社会で直面する課題を「生命」「環境」「国際理解」「人権」「平和」というキーワードを掲げて考えてきました。高校3年生は、いよいよ社会に飛び立つ＝人生最初の選択の時を迎えます。これか

3. 高校3年 生き方を探る—これが私の生きる道 生き方を共有するスピーチの取り組み

ら幾多の課題を抱えた社会の中でどのような生き方をしていくのか、夢と未来を語りながらも地に足をつけた現実的な人生設計を考えることが求められます。これまで学んできた総合人間科の成果を活かして自分のこれからの「生き方」を考えてみましょう。

これからの社会を築いていくのはあなた達です。「これが私の生きる道」と言えるような自分の未来をつかむ第一歩を踏み出しましょう。

学年の目標

社会の発展と自分の生き方（進路）を結びつけて考える。

総合人間科の目標は「自分の人生を自覚的に選択していく力を育てる」ことです。その意味では高校3年生で皆さんが自分の意志で進路を決定していくことが、これまでの学習のしめくりとなります。

個人研究やグループワークなどで培った総合的な問題意識や社会認識を基盤として、一人一人が自分の人生＝進路を意識的に選択し、実現していくことが大切です。

また、個人的な進路だけでなく、21世紀の社会を築く仲間としてこれから何が求められているのかお互いに問いかけ、学びあい、社会の発展と自分の生き方が結びつけられると「豊か」に生きることができるでしょう。』

と言うように高校3年の総合人間科はスタートした。学年テーマは、わかりやすくイメージを持ちやすいものと考えてPUFFYの曲にちなんで「これが私の生きる道」とした。結構考えてつけた学年テーマであったが、生徒にはあまり受けなかったようである。

(2) 系統別グループによる活動

学年テーマに沿って実際の活動は、系統別グループを組織して、その中で個人研究を行った。系統別グループは事前にアンケートを行い、「進路」の要求に合わせて6グループを組織した。その内訳は、人文グループ、人文・社会グループ、理・工グループ、工学グループ、農・医・家政グループ、教育・芸術・就職グループである。この系統別グループが進路を決定するものではなく、同じ方向性を持った仲間が集まって生き方について話し合うという程度のものであった。また、個人研究と言っても生き方の問題を個人だけの問題とせず、仲間の中で励まし合っていくという方針なので、系統別グループを組織し話し合いの雰囲気大切にされた。なお、系統別グループは本人の第一希望を尊重したので、グループごとの人数的なアンバランスが生じた。しかし、こ

れは「生き方」を考えるという観点から無理に別のグループに押し込むと言うことをしなかったからやむを得ないことであった。実際には、人数的なアンバランスにより不都合はなかった。

4. フィールドワークの取り組み

高校1年・高校2年の各学年でもフィールドワークを実施してきたが、高校3年で「脱教室」のフィールドワークを行った。これは、「生き方」についての意識を高めるために、自分の「進路」や興味関心のある場所に出かけて調査・研究することがねらいである。一般に行われている学校見学や職場訪問と違うのは、ただ訪問して、受動的に説明を受けるのではなく主体的に訪問先を検討して、問題意識を持って意識的に参加することである。単なる「見学」に終わるのでなく、担当者から取材して学習してくるのである。

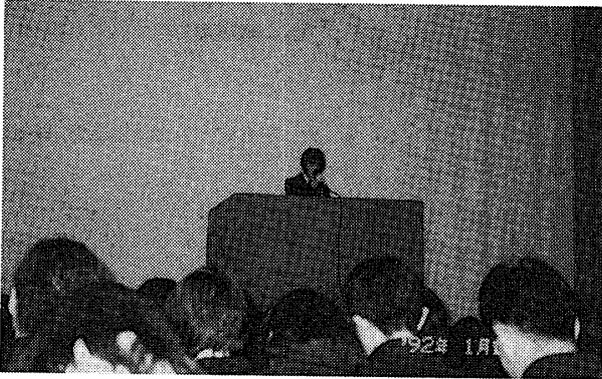
5. 「生き方」を共有したスピーチ

(1) スピーチの取り組みについて

人の話を聞くと言うことは、目的を持って聞く場合は有意義なものとなる。話を聞かされているという立場では、真剣に聞くことができないであろう。しかし、「生き方」を語るスピーチでは、全員がしっかりと目的を持って聞けたようである。それは、自分たちの、グループから選ばれた代表と言うこともあるが、何よりも「生き方」についてどのように考えているか、聞きたいと思うのは、同じ悩みを持っている仲間として当然のように思える。実際に体育館に高校三年生が全員集まってただじっとスピーチを聴くこと言うことに確かに不安はあった。しかし、実際に始めてみると、真剣にスピーチに聴き入っていた。これは、スピーチに対する感想からも伺うことができた。全体的に発表者に対して、共感を持てたということである。感想文を紹介すると、

- ・「30年後は私にとって全く想像できないけれど、山本さんは大きな夢があり、すばらしいと思う。女性のリードする社会が、それぞれの世界で実現できたらいいと思う。」
- ・「マスメディアをうまく利用して、大きな力を得て問題を解決する担い手になりたいというのはよいアイデアで素晴らしいと思う。自分を見つめることをし、どうあり答えを出すことは大切だ。」
- ・「自分を見つめて、よく考えていると思った。やっぱり進路を考える時間が少ないと思った。」
- ・「夢というものがどういうものかを感じさせられた。自分も小さいときの夢を思い出した。」
- ・「自分の特技を活かす夢というのはやりがいがある

るように感じられる。でも常に自分を見つめると
いうのに惹かれた。」



(2) スピーチ代表者とテーマ

全体スピーチでは、各グループから代表を3名選
び、18人で発表を行った。発表者とテーマは以下の
通りである。

人文グループ

- 土方裕子 「英会話」
- 安井宣雅 「自分の将来とこの授業へのグチ」
- 山本麻衣子 「30年後の私」

人文・社会グループ

- 尾崎恵理 「夢」
- 鬼頭英幸 「愛」
- 木村佳世 「希望」

理・工グループ

- 浅沼貴公 「人口爆発」
- 斉藤文誉 「これが私の生きる道」
- 八木祐樹 「これが私の生きる道」

工学グループ

- 各務達朗 「過去からつながる将来」
- 早川絵美 「将来の夢」
- 深見裕子 「今後の予定」

農・医・家政グループ

- 今岡彩子 「今までの私とこれからの私」
- 郷之丸昌子 「目標」
- 南埜美佳 「私がしたいこと」

教育・芸術・就職グループ

- 大隅迅人 「道—keep on sailin」
- 寺本沙織 「理想」
- 広田雄介 「将来について考えたこと」

(3) スピーチの反省点

スピーチの取り組みで反省すべきことは、生徒か
らも指摘されたのだが、全体でのスピーチに評価を
つけることである。各グループからの代表なのであ
えて発表に評価をつけないでほしいと言うことであ
る。これは、私自身も多少疑問を感じたので、各グ

ループでスピーチを行ったときは、五段階で相互評
価を行ったのだが、全体スピーチでは三段階に減ら
している。しかし、評価をする観点からスピーチを
見なくても生徒自身がしっかりと自分のものにする
ことができたようである。

おわりに—総合人間科と「進路」

高校3年生と「生き方」について考えてきたのだ
が、この中で総合人間科の授業が生き方に影響を与
えていることが色々な点から見えてきた。特に、高
校1年で選んだテーマが高校3年での「進路」選択
に決定的な影響を与えていた生徒が何人もいた。高
校1年で選んだ個人研究テーマを暖め、そのテーマ
を発展させる形で自分の進路の方向性を検討してい
たのである。結果的に早い時期から明確に自分の意
志をもって「生き方」に取り組むことが出来たよう
である。高校3年の学年テーマ「生き方を探る」は、
高校3年間の総合人間科の授業を通じて「生き方」
という自己の問題としてしっかりと定着したように
思われる。

3. 高校3年 生き方を探るーこれが私の生きる道 生き方を共有するスピーチの取り組み

フィールドワーク訪問先一覧

人文グループ	人文・社会グループ	理・工のその他グループ
名古屋観光専門学校	国際センター	名大医学部附属動物実験施設
名古屋市博物館	愛知学院大 広報課	名大情報文化学部
Sinsekai Corporation	名大経済	名大工学部複雑システム工学
ZIP-FM	地方裁判所	名大工学部生物機能工学
グランパス広報部	ゲーム開発会社(株)シャトル	名大情報文化学部
全日本空輸(株)名古屋支店	南山大学法学部	名大農学部資源生物環境科
医学部	名商大 入試課	コンピュータ学園HAL 鈴木様
ゲーム開発会社(株)シャトル	地方裁判所	同上
シェコーベ	名古屋モード学園	名大工学部
県大文学部学生課学生部長	国際センター	名大工学部機械工学科電子機械
同上	名商大 入試課	同上
同朋大仏教	地方裁判所	コンピュータ学園HAL
名古屋三越	南山大学法学部	同上
同上	地方裁判所	名大農学部資源生物環境科
名大文学部西洋史教室	同上	名大情報文化学部
県大文学部学生課学生部長	淑徳大 入試広報課	名大工学部機械工学科電子機械
名大言語文化部	地方裁判所	
HIS本山支店	愛知学院大 広報課	
同上	南山大学人類合同研究所	
名古屋市ボランティア情報センター	名古屋ボランティア情報センター	
	名古屋家庭裁判所	
	淑徳大 入試広報課	

工学部グループ	農・医・家政グループ	教育・芸術・就職グループ
名大工学部建築学科	南知多ビーチランド	教育 榊研究室
同上	金城大学家政総務課	名大医学部理学療法学
名大情報文化学部	同上	中日新聞社
三菱重工名古屋研究所	名古屋女子大学食品栄養学科	心理 岡田研究室
名大工学部建築学科	医学部附属病院精神科	名古屋モード学園
名大理学部物理化学研究室	辻学園入学相談会	ゲーム開発会社(株)シャトル
名大工学部建築学科	名市大看護学部	教育 榊研究室
三菱重工名古屋研究所	農学部	中京テレビ
名大工学部建築学科	同上	スタジオベティクス
名大工学部複雑システム工学	名市大看護学部	名大医学部理学療法学
名大工学研究科材料機能工学	同上	同上
名大情報文化学部	名城大学薬学部	元本校理科講師高橋先生の自宅
コンピュータ学園HAL	農学部	ヘラルドシネブラザ
名大工学研究科材料機能工学	動物愛護センター	文学部東洋史
三菱重工名古屋研究所	名大病院医学部	中京テレビ
名大工学研究科材料機能工学	名城大学薬学部	県立芸大
	名市大看護学部	ヘラルドシネブラザ
		文学部心理
		南知多ビーチランド
		子どもの虐待防止ネットワーク愛知キャプナ
		中京テレビ
		中日新聞社